

WCPFC（中西部太平洋まぐろ類委員会） 「北小委員会」の結果について

平成30年9月
水産庁

1. 日程・場所

9月4日（火）～7日（金）、福岡市において開催。

なお、期間中に、太平洋クロマグロについて議論するため、IATTC（全米熱帯まぐろ類委員会）との「合同作業部会」を開催。

（注）WCPFC（中西部太平洋まぐろ類委員会）：中西部太平洋における高度回遊性魚類（マグロ、カツオ、カジキ類）資源の長期的な保存及び持続可能な利用を目的とした地域漁業管理機関。「北小委員会」は、主に北緯20度以北の水域に分布する資源（太平洋クロマグロ、北太平洋ビンナガ、北太平洋メカジキ）の管理措置について本委員会に勧告を行う。WCPFCの下部組織。

2. 参加国・地域（8カ国・地域）

日本、韓国、米国、カナダ、クック諸島、フィジー、バヌアツ、台湾。

（IATTCとの「合同作業部会」には、メキシコ、EUも参加。）

3. 我が国出席者

太田 慎吾 水産庁資源管理部審議官が我が国代表として出席。業界関係者も代表団として参加。

なお、宮原 正典 農林水産省顧問が議長を務める。

4. 結果概要（クロマグロの資源管理措置）

① 漁獲上限の増加

我が国の漁獲上限の増加に関する提案について、多くの国・地域が「資源がいまだに少ない中で増枠は時期尚早であり、今回の会合では増枠には一切応じられない。」と主張し、合意に至らず。

これを受けて、「来年の会合においてISC（※）が資

源の状況を改めて確認した上で、増枠に関する決定を行う」旨の議長提案がなされたが、我が国は立場を留保した。その上で、12月のWCPFC「年次会合」において、再度議論することとなった。

※ISC（北太平洋まぐろ類国際科学小委員会）

北太平洋におけるまぐろ類資源の科学的評価を目的として設立された国際科学機関。WCPFCに対して科学的情報・提言を提供。

② 余った漁獲枠の繰越し

我が国の余った漁獲枠の繰越しに関する提案について、合意は得られなかった。

[参考] 今後のスケジュール

12月10日（月）～14日（金）

：WCPFC「年次会合」（於 ホノルル（米国））